

〔江戸東京野菜生産流通拡大事業〕（受託試験）  
馬込三寸ニンジンの夏播き栽培における播種日が生育に及ぼす影響

海保富士男・野口 貴・沼尻勝人・木下沙也佳  
（園芸技術科）

---

【要 約】馬込三寸ニンジンの夏播き栽培では、11月まで順調に生育するが、12月以降生育が緩慢になる。7月下旬播種では11月上中旬でつまりがよくなるが、8月播種では播種日が遅くなるほど、根部は伸長がつづくが12月以降肥大せず、つまりが不十分となる。

---

【目 的】

「馬込三寸ニンジン」の栽培マニュアルを作成するうえで、その栽培特性を明らかにする必要がある。今回は、播種期や収穫期を判断するための資料を得ることを目的とし、夏播き栽培での播種日および収穫までの栽培日数が生育に及ぼす影響を明らかにする。

【方 法】

「馬込三寸大太にんじん」（以下「馬込三寸」とする）を2017年7月21、27日および8月10、24日に播種した。70 cm幅ベッドの条間15 cm 4条に6 cm間隔で5～10粒播種し、その後株間が11 cmになるように間引いた。肥料は成分量でN:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=8:15:8 kg/10aを施用した。播種後70日目からほぼ10日間隔で収穫し、根長、根重などを調査した。

【成果の概要】

1. 根重は、いずれの播種日も11月までは急激に増え続け、12月以後増加は緩やかになった（図1）。11月まで根重増加が急な時期において、8月24日播種は7月から8月10日までの播種のものに比べて根重増加の程度が劣った。
2. 根長は、いずれの播種日でも播種後70～80日で9 cm程度あり、90日頃には「馬込三寸」の収穫サイズと言われる10 cmに達し、以後伸長が緩やかになった（図2）。7月21日播種では根長が12月までに13 cm程度になり、その後ほとんど伸長しなかったのに対し、8月播種では12月以降も伸長しつづけ、1月には15～16 cmに達した。
3. 上部の根径は、根重と同様に11月いっぱいまでいずれの播種日も急激に増加し続けた（図3）。しかし、根重とは異なり各播種日とも12月以降で根径は増加しなかった。そのため、7月播種に対し8月10、24日と播種日が遅くなるほど、根径は小さかった。
4. 下部の根径は、いずれの播種日も11月中旬まで急激に増加した（図4）。その後も、8月播種で上部根径より遅い12月中旬まで、7月21日播種で12月以降も増加しつづけた。
5. 「馬込三寸」の特徴のひとつに尻部のつまりがよいことにある。7月21日播種のものでつまりの推移をみると、播種後90日頃まであまりよくなく、100日頃からつまり始まり、110日以降でつまりがよくなっている（図5）。これは、播種後90日頃で根部の伸長が緩やかになり（図2）、この後も根部が肥大するためである（図3、4）。7月21日播種でつまりがよいものが収穫できる時期は、播種後110日の11月上旬以降である。

【残された課題・成果の活用・留意点】

1. 「馬込三寸」の収穫適期のサイズや形状が明確でないので、春播き栽培を含め、収穫適期とともに最適株間、播種限界や在圃性を明らかにする。さらに、母本選抜し採種を行う。

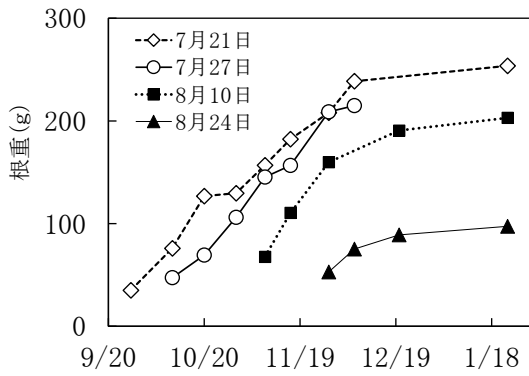


図1 播種日ごとの根重の推移

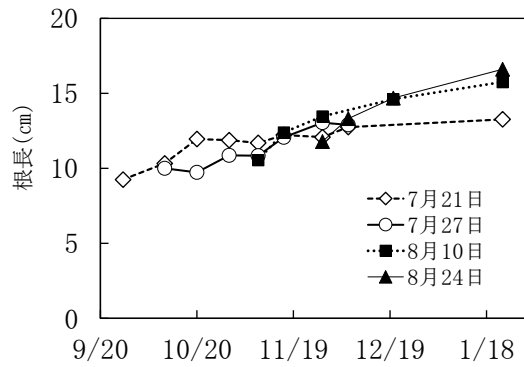


図2 播種日ごとの根長の推移

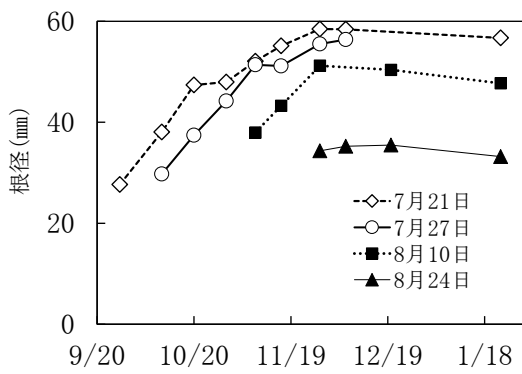


図3 播種日ごとの上部根径の推移  
(首部から3cmの部分)

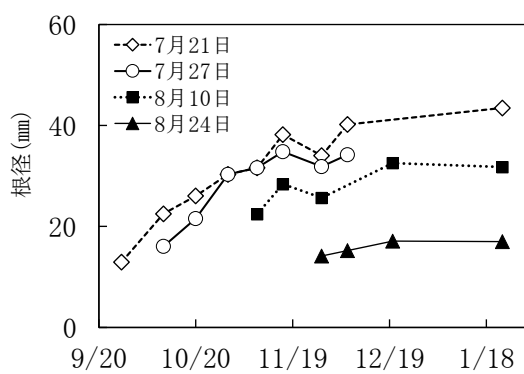


図4 播種日ごとの下部根径の推移  
(先端から3cmの部分)



図5 播種日ごとのニンジンの形状の変化 (7月21日播種)

左上から播種後68日, 81日, 91日, 101日

右上から播種後110日, 118日, 130日